

鈴鹿山麓混成博物館フォーラム2019

水の悦び

生き物にとって最も大切なものは「水」

人間もその生き物の一員

良き水を得る事への切願が、日本の文化の基層に流れています。

とりわけ、真水の浄土「琵琶湖」と暮らす近江には、

水に対する想いが色濃く残され、これを知ることが、

現在、そして未来の水の文化を創造することに繋がるのではないのでしょうか。

今回のフォーラムは、水と人間との関わりを、

鈴鹿山麓をフィールドに、自然・暮らし・祈りからアプローチします



開催日時 **2019年9月7日** 13:30～16:30 (開場12:30)

会場 **大津市勤労福祉センター 5階 大ホール**

参加 **参加無料・定員150名** (先着順・参加多数の場合は入場をお断りする場合があります)

お問い合わせ **多賀町立博物館 TEL 0749-48-2077**

主催 **鈴鹿山麓混成博物館**

水の悦び

開催日時 **9月7日**

スケジュール

受付・開場 12:30 開会 13:30~16:30



講演1

岩と水と祈りの物語 —景観を造る鈴鹿山麓の岩と水—

多賀町立博物館 館長 **小早川隆氏**

鈴鹿山麓には、岩と水が造り出した魅力的な景観が広がります。人達はこの自然と様々な交渉しながら暮らしを育んできました。そこには、自然と共生する人の姿があります。多賀町を中心に岩と水と人を巡る暖かな物語を紹介します。



小早川講演：節理に沿って流れ落ちる水

講演2

魚が結ぶカミと人

滋賀県立琵琶湖博物館学芸技師 **渡辺圭一氏**

水の中を泳ぐ魚たちは、人間以上に水に依拠しています。それだけに、水世界、言い換えれば水世界を司る神様の世界と、人間とを結ぶ力を持っている、と意識されました。様々な祭りの舞台に登場する魚を通し、水・人・暮らしの関わりを考えます。



渡辺講演：すし切り祭り

講演3

日本武尊と大蛇の葛藤 —水を利用する—

公財) 滋賀県文化財保護協会普及専門員
NPO法人歴史資源開発機構主任研究員 **大沼芳幸氏**

人は、水源を開発しこれ暮らしの中に導きました。しかし、この間には人と自然を巡る様々な葛藤があり、これが日本武尊神話に投影されています。水神としての蛇と神話の英雄との闘いの結果残された文化を追います。



大沼講演：勧誘所に打ち込まれた矢

鈴鹿山麓混成博物館とは

鈴鹿山麓にある、東近江市博物館グループ(近江商人博物館、中路融人記念館、西堀榮三郎記念探検の殿堂、能登川博物館)・愛荘町立歴史文化博物館・多賀町立博物館が中心となり、関係する観光協会や民間企業とも連携し、鈴鹿山麓の文化を地域の資源として発信するため、2018年に結成された団体です。

〈事務局〉多賀町立博物館 TEL 0749-48-2077

会場 大津市勤労福祉センター 5階 大ホール

滋賀県大津市打出浜 1-6

〈最寄り駅〉京阪電鉄石坂線 石坂駅下車徒歩3分

JR琵琶湖線 膳所駅下車徒歩12分

※出来るだけ公共交通機関をご利用ください。

※お車でこ来場の場合は、周辺有料駐車場をご利用ください。

参加 **参加無料・定員150名**

(先着順・参加多数の場合は入場をお断りする場合があります)

お問い合わせ **多賀町立博物館 TEL 0749-48-2077**

主催 **鈴鹿山麓混成博物館**

